

中国景気概況(2021年10月)

2021年10月4日

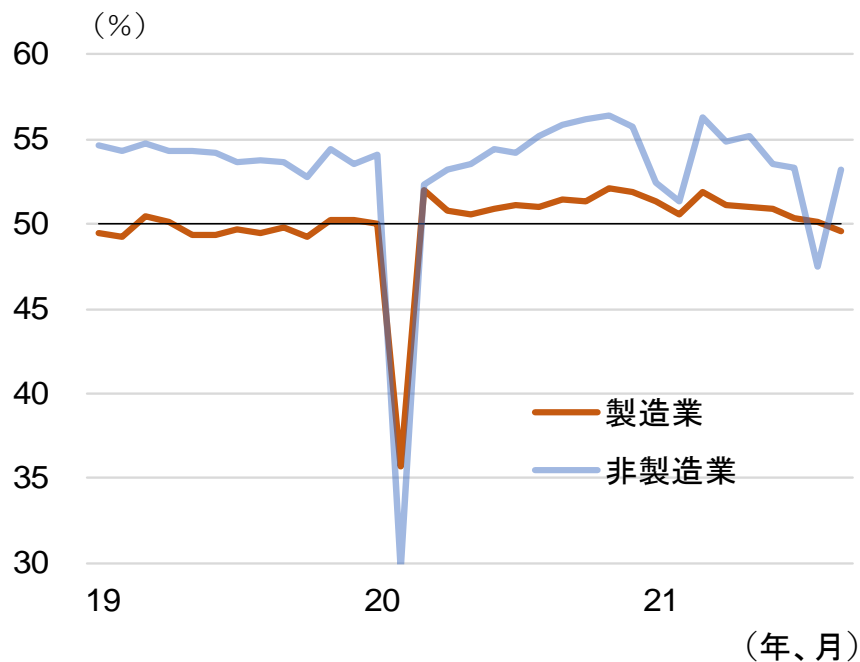
調査部 研究員 丸山 健太

PMIは低下、景気は拡大が一服

9月のPMIは製造業が49.6と、景況感の境目である50を下回り、景気は拡大が一服している。原材料価格高騰や電力不足を背景に、中小企業の落ち込みが大きかった。非製造業は53.2と、新型コロナウイルスの感染収束で再び50を上回った。

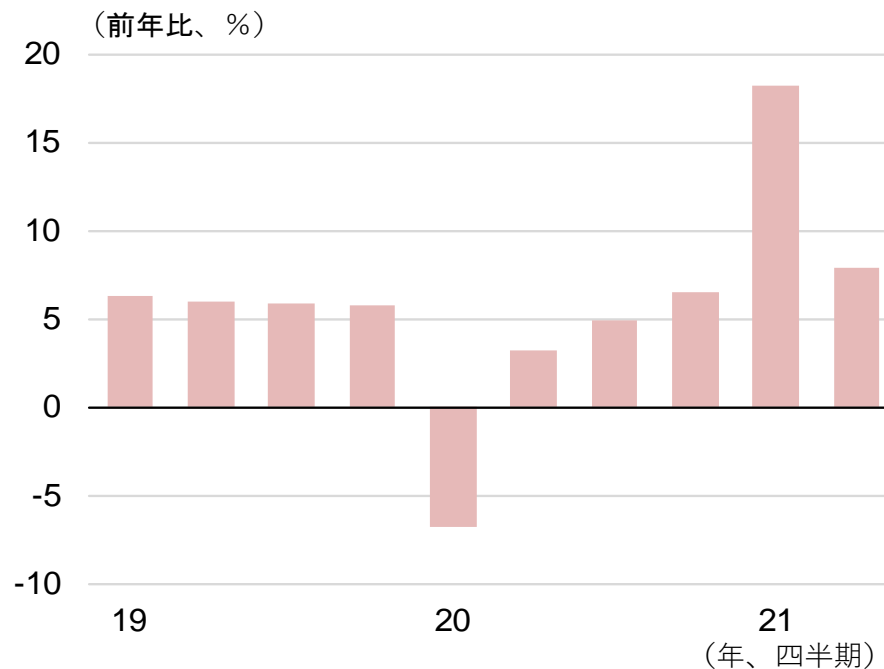
なお、7月に公表された2021年第2四半期の実質GDPは、前年比+7.9%と大幅な増加が続いたが、季節調整後の前期比は+1.3%(年率換算値+5.3%)と、サービス消費などの回復が遅れ、コロナ前の勢いを取り戻すには至っていない。

PMI



(出所) 国家統計局

実質GDP(四半期)



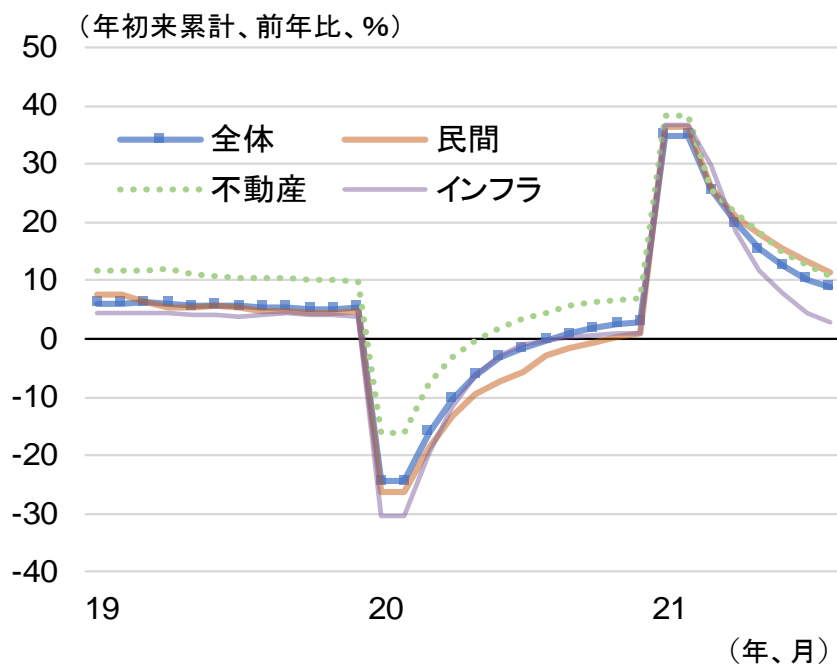
(出所) 国家統計局

固定資産投資、生産は増勢が鈍化

8月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+8.9%と増加幅が縮小した。コロナ禍の影響を除いた2年前比でみると、投資全体の5割強を占める民間投資は堅調を維持しているが、不動産投資やインフラ投資の伸びは足元で鈍化している。

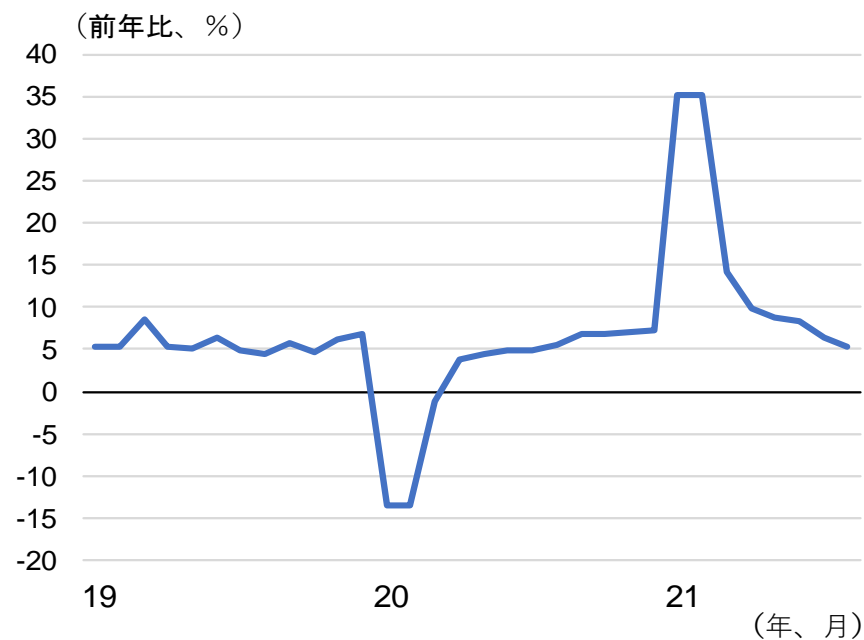
8月の工業生産も前年比+5.3%と増加幅が縮小した。医薬品製造業やコンピューター・電気機械製造業などの増加が全体を押し上げた一方、半導体不足により減産を強いられている自動車製造業は3ヶ月連続で前年割れとなった。

固定資産投資



(出所) 国家統計局

工業生産



(出所) 国家統計局

消費は回復に足踏み、物価は持ち直しペースが鈍化

8月の小売売上高(名目)は前年比+2.5%と、増加幅は前月(前年比+8.5%)から大きく縮小した。特に、7月下旬からの感染拡大と行動制限の影響で、飲食サービス消費が大きく減少した。もともと、8月下旬までに感染は落ち着き、ワクチンの接種も進んでいることから、今後、サービス消費の回復とともに、消費全体も回復軌道に戻ることが期待される。

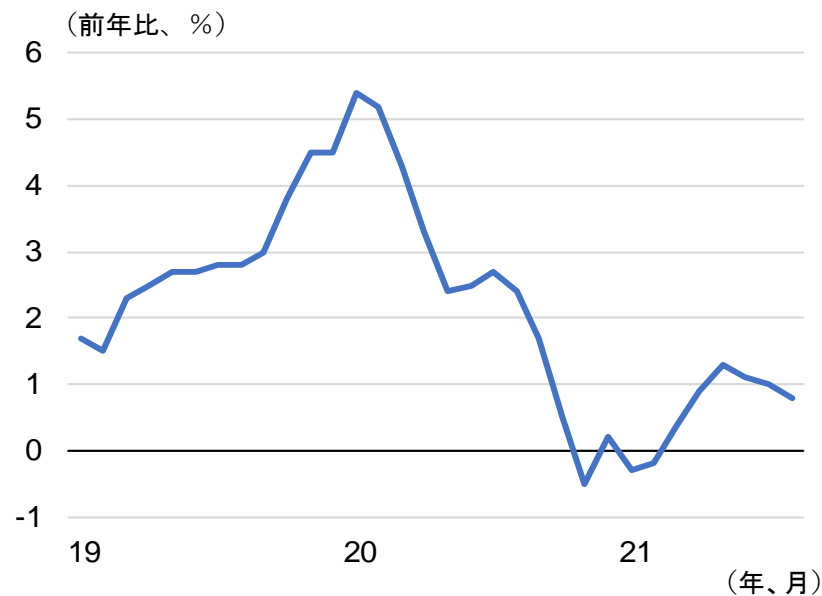
8月の消費者物価上昇率は前年比+0.8%と、持ち直しペースが鈍化した。豚肉価格の下落が物価を押し下げている。

小売売上高(名目)



(出所) 国家統計局

消費者物価指数

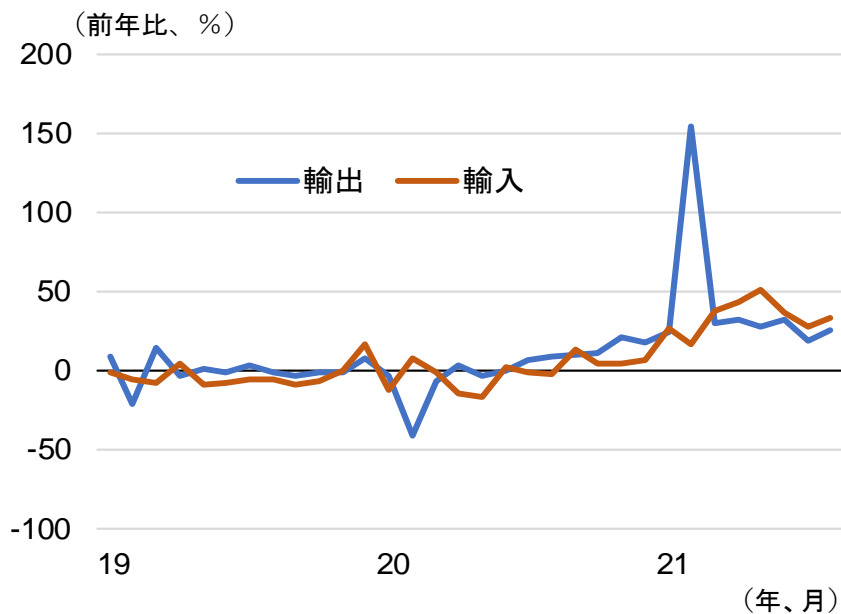


(出所) 国家統計局

輸出入とも増加が続く

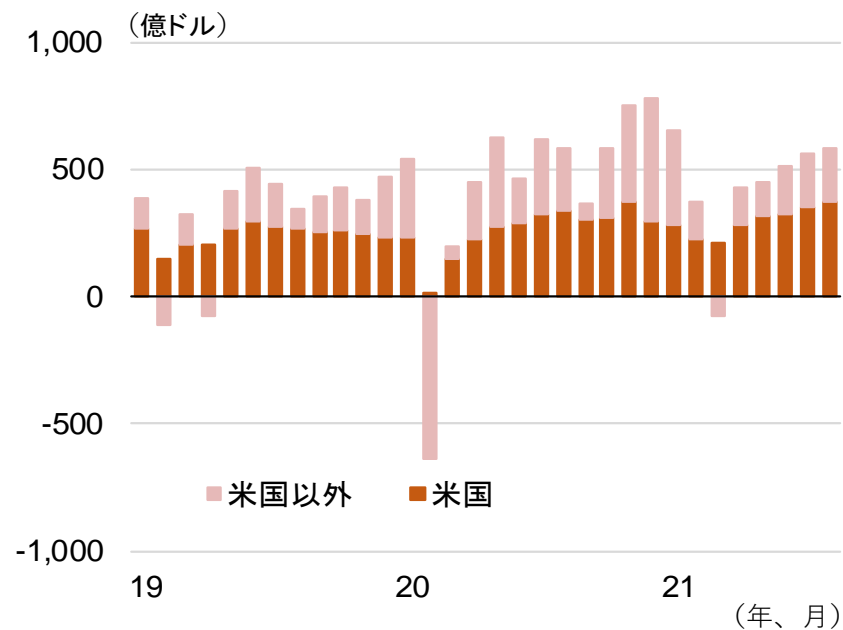
8月の輸出は前年比+25.6%、輸入は同+33.1%と増加が続いた。貿易黒字は583億ドルと、前年同月(589億ドル)からわずかに縮小した。輸出は、品目別では半導体など電子部品の寄与が、地域別では米国やASEAN向けの寄与が、それぞれ大きかった。また輸入は、価格上昇が目立つ原油、鉄鉱石・非鉄金属鉱や、需要が強い電子部品が大きく増加した。貿易収支は、対米国の黒字幅は前年同月から拡大したが、対オーストラリア、対台湾などの赤字幅拡大が大きかった。

財輸出入



(出所) 海関総署

貿易収支

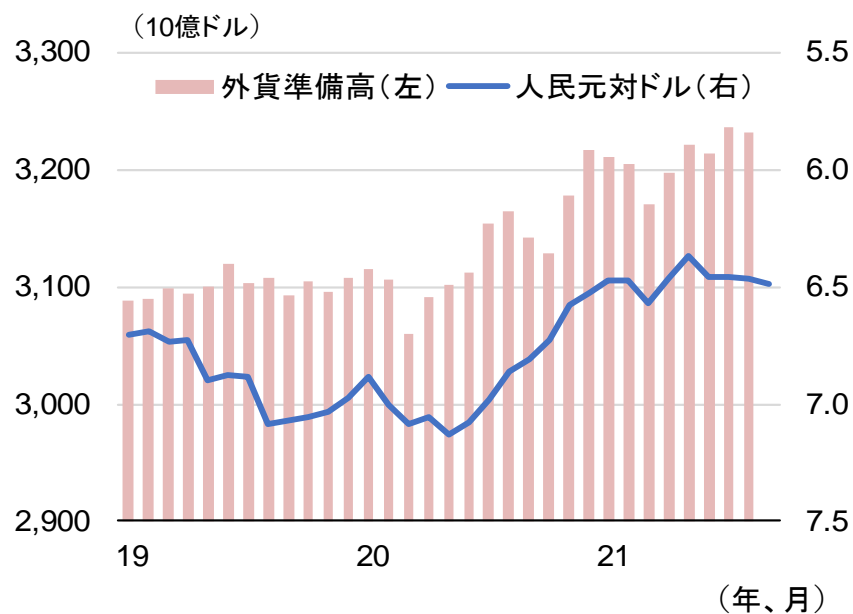


(出所) 海関総署

為替は横ばい、株価は上昇後下落

人民元の対ドルレート(9月末値)は1ドル=6.49元と、横ばいで推移した。9月中旬には一時、1ドル=6.43元までドル安・元高が進んだ。その後、不動産大手・中国恒大集団の経営不安を材料にドル高・元安が進んだが、現時点では債務危機にまで発展する可能性は低いとみられ、影響は限定的だった。8月末時点での外貨準備高は、3兆2321億ドルと減少した。9月の上海総合株価指数は、月前半は上昇したものの、後半は中国恒大集団の経営不安などを背景に下落した。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

上海総合株価指数

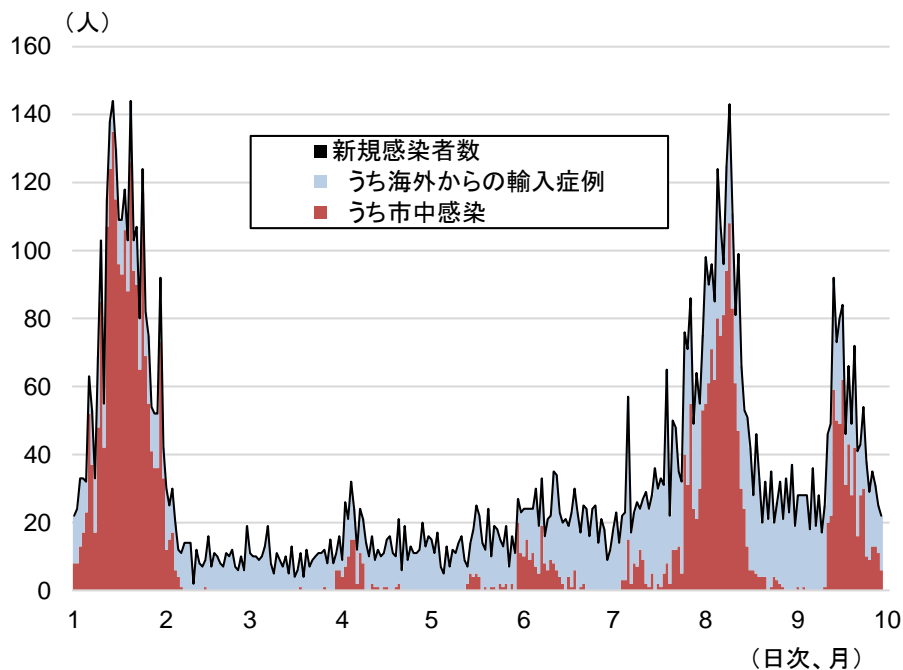


(出所) 上海証券交易所

サービス消費が回復に向かうか否かは、国慶節での盛り上がり次第

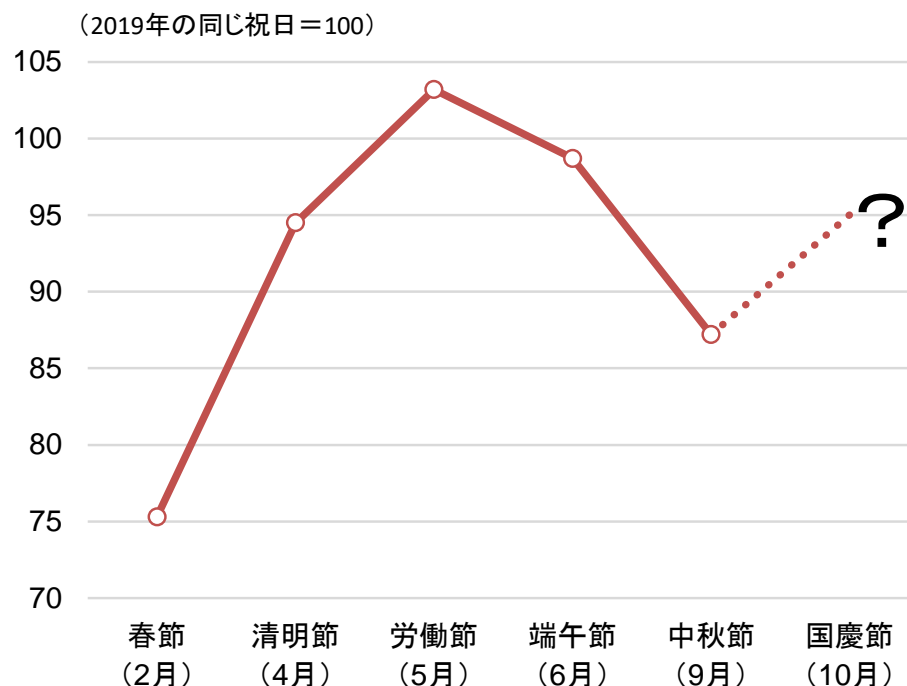
2021年9月の非製造業PMIIは53.2と、2ヶ月ぶりに景況感の境目である50を上回った(1頁参照)。8月の下振れを招いた水害と感染拡大の影響が剥落したとみられる。これにより、8月には前年割れした飲食サービス消費も、9月には再び前年比上昇に転じよう。もっとも、9月中旬には福建省でクラスターが発生し(左図)、中秋節(19~21日)の旅行の人出は、2019年の9割弱と、6月までに概ねコロナ前の水準を回復していたことを考えると、冴えなかった(右図)。サービス消費の回復ペースを占ううえで、国慶節(建国記念日、10月1日~7日)の連休期間中の旅行、消費動向が注目される。

新型コロナウイルス新規感染者数



(出所) 国家衛生健康委員会

祝日における旅行人数(2019年との比較)

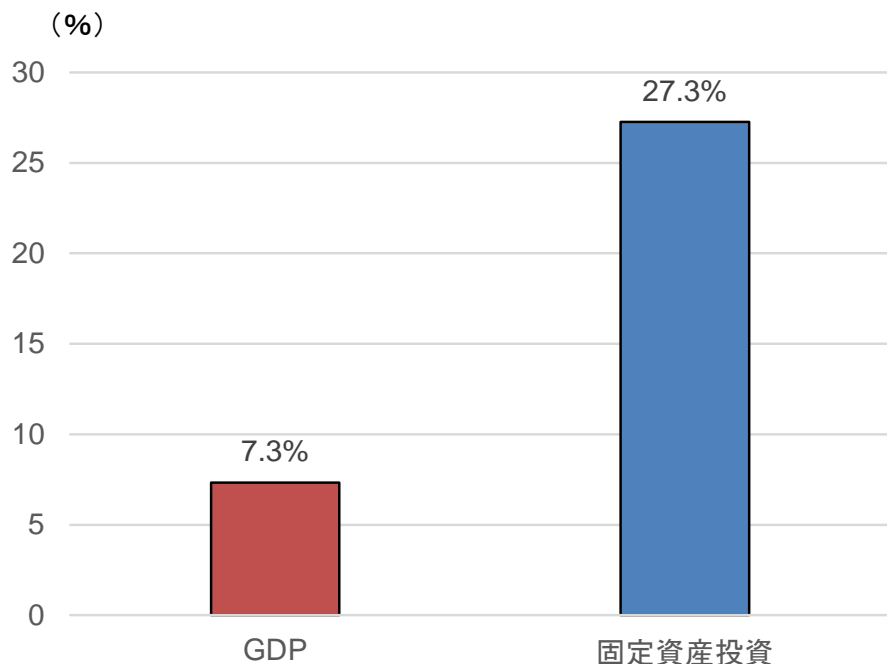


(注) いずれも2019年の対応する祝日を100とした時の旅行消費金額と旅行人数
(出所) 文化和旅游部公表資料よりMURC作成

不動産業界への打撃が、中国景気を下押しする懸念が浮上

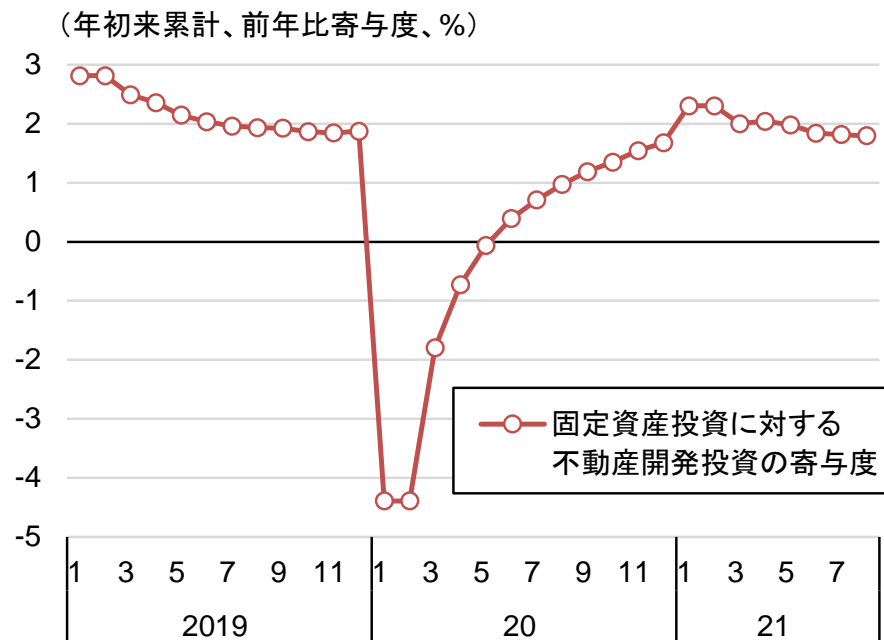
不動産大手・中国恒大集団の経営不安が大きな注目を集めている。9月23日、29日が期日であったドル建て社債の利払いが遅れ、デフォルト懸念が高まっている。経営不安の背景には、不動産業への財務規制の強化などがあるため、業界全体に問題が波及する懸念がある。デフォルトの連鎖による債務危機の発生が最大のリスクではあるが、そこまで至らずとも、GDPや投資に占める比率が大きい不動産業界への打撃は、景気の腰折れを招く恐れがある。これまでコロナ禍からの回復に寄与してきた不動産開発投資の伸びは足元で鈍化しており、さらなる影響の拡大・深刻化が懸念される。

不動産業が全産業に占める割合



(注) いずれも2020年
(出所) 国家統計局

これまでコロナ禍からの回復に寄与してきた不動産開発投資



(注) 2021年以降は2019年同月比
(出所) 国家統計局

(月次、年)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください